

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築史	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	2単位(36時間)	開講・履修期	2026年度・1年(後期)	講義区分	専門理論
教員紹介	吉川 友司(建築設計事務所にて、戸建住宅・集合住宅・店舗・展示会等の設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	建築の歴史を学ぶという事は、先人たちが行ってきた建築的な試行錯誤の跡の確認であり、現在あるいは未来という時代に必要とされている建築行為を見定めるために不可欠な身の構えである。この科目では建築史の基礎を学ぶとともに建築史への興味を抱かせること。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 日本建築史	ガイダンス・授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2回		1:竪穴式住居と高床式建物(三内丸山遺跡)／2:古代の神社建築(伊勢神宮/出雲大社)
第3回		3:仏教建築の伝来(法隆寺金堂)／4:古代の都市計画と住宅(平安京、平城京)
第4回		5:浄土教の建築(平等院鳳凰堂)／6:中世の仏教建築(浄土寺浄土堂)
第5回	2. 日本近代建築史	7:中世の神社建築(厳島)／8:中世の住宅から書院造へ
第6回		9:城郭建築(姫路城)／10:茶室と数寄屋(桂離宮)
第7回		11:近世の寺社建築(善光寺、日光東照宮、栄螺堂)／12:民家
第8回		1:西洋文化の移入(グラバー邸/富岡製糸場)／2:日本人建築家の誕生(東京駅/日本銀行)
第9回	3. 西洋建築史	3:洋式建築の展開と新しい様式の模索／4:都市計画および構造技術の発達
第10回		5:モダニズム建築の到来／6:戦後復興から高度成長期にかけて(広島平和記念館)
第11回		7:戦後の住宅政策とDK住宅の誕生／8:日本建築界からの発信
第12回		9:モダニズムの先を求めて(つくばセンタービル/京都駅ビル/せんだいメディアテーク)
第13回	4. 西洋近代建築史	1:エジプト建築(ギザのピラミッド)／2:オリエント建築
第14回		3:ギリシア建築(パルテノン神殿)／4:ローマ建築(パンテオン、コロッセウム)
第15回		5:初期キリスト教建築／6:ビザンティン建築
第16回		7:イスラム建築／8:ロマネスク建築
第17回		9:ゴシック建築／10:中世の世俗建築
第18回		11:ルネサンス建築／12:バロック建築／13:リヴァイヴァル建築
第19回	4. 西洋近代建築史	1:新材料を用いた構築物(1851ロンドン万博/1889パリ万博)／2:都市問題・住宅問題
第20回		3:アーツ・アンド・クラフツ運動(マッキントッシュ)
第21回		4:アール・ヌーヴォ(オルタ、ギマール、ガウディ、モンタネル)
第22回		5:アメリカ建築の近代化(シカゴ高層建築)／6:セセッション(ヴァーグナー)
第23回		7:鉄筋コンクリート造建築の登場／8:ドイツ工作連盟(AEGタービン工場)
第24回		9:近代建築運動(シュレーダー邸)
第25回		10:モダニズム建築の完成と流布(グロピウス、ミース、コルビュジェ、ライト)
第26回		11:アール・デコとスカイスクレイパー(クライスラー/エンパイアステートビル)
第27回		12:第二次世界大戦後の建築(シドニー・オペラハウス)
第28回		13:ポストモダニズム建築(ボンポドー・センター/香港上海銀行)
第29回		14:ポストモダニズム建築(ゲリー自邸/母の家)

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週 前期21週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築計画Ⅰ	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	2単位(36時間)	開講・履修期	2026年度・1年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	吉川 友司(建築設計事務所にて、戸建住宅・集合住宅・店舗・展示会等の設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	「建築計画Ⅰ」は、初めて建築計画を学ぶものにとって、最も身近な生活の器である住宅について、その計画の方法を理解し、快適な住空間を創造する計画技術を学ぶ。また環境デザインのための基礎知識である太陽や風などパッシブデザインを行う上で必要な基礎知識の理解を深めることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドや資料などの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1～6回	建築計画の基本知識	■単位と寸法 建築で使用される長さ及び面積の単位、建築に関わる寸法の種類、動作空間と単位空間、人体寸法、動作空間、高さと奥行に関わる寸法 ■建築計画の進め方の基本 モジュールとモデューラーコーディネーション、様々なグリッドタイプ、畳の寸法、畳の敷き方、グルーピングとゾーニング、動線空間、分割法と連結法、経済的管理に関する計画
第7～12回	各部および単位空間の計画	■各部の計画 扉、窓、屋根、階段 ■単位空間の計画 廊下、便所、浴室、就寝のための空間、食事のための空間、会議・学習・執務のための空間
第13～18回	独立住宅の計画	■独立住宅における平面計画と配置計画の原則 平面計画の原則、配置計画 ■独立住宅における諸室の計画 居間、食事室、夫婦寝室、子供室、老夫婦室、書斎、家事室、浴室、洗面室・脱衣室、便所、応接室・客間、玄関、廊下、階段、押入・クローゼット・納戸 ■独立住宅の平面形式 平面計画(プランタイプ)について、日本の伝統的な住宅にみられる平面形式について ■独立住宅の事例 日本の代表的事例、日本のその他の事例、諸外国の事例 ■独立住宅の工法 住宅の工法に関する用語、各種工法

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週 前期21週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築一般構造	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	4単位(72時間)	開講・履修期	2026年度・1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	丹野 亜紀(エネルギー事業会社で、地域開発業務、戸建て・集合住宅等の企画・設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	建築物の構造の大部分をしめる木構造・鉄筋コンクリート構造・鉄骨構造の内、木構造と鉄筋コンクリート構造について学ぶ。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュール
第2回	建築工法の概要	構法の変遷、構造の分類①
第3回		構法の変遷、構造の分類②
第4回	木質構法	木質構法の種類
第5回		木材(建築用木材)①
第6回		木材(建築用木材)②
第7回		木材(木質材料)
第8回		基礎、地盤調査、地業
第9回		軸組工法①
第10回		軸組工法②
第11回		軸組工法③
第12回		軸組工法④
第13回		軸組工法⑤
第14回		軸組工法⑥
第15回		軸組工法⑦
第16回		軸組工法⑧
第17回		その他構法
第18回		枠組壁工法、大断面集成材工法
第19回	鉄筋コンクリート構造	構造形式と構造の原理
第20回		コンクリート(セメント、骨材、混和材)①
第21回		コンクリート(セメント、骨材、混和材)②
第22回		コンクリート(調合)①
第23回		コンクリート(調合)②
第24回		鉄筋(種類と強度)①
第25回		鉄筋(種類と強度)②
第26回		鉄筋(加工と継手、かぶり厚さ、定着)①
第27回		鉄筋(加工と継手、かぶり厚さ、定着)②
第28回		ラーメン構造①
第29回		ラーメン構造②
第30回		ラーメン構造③
第31回		ラーメン構造④
第32回		ラーメン構造⑤
第33回		ラーメン構造⑥
第34回		その他RC構造
第35回	その他RC構造	壁式構造、プレキャスト構造、鉄骨鉄筋コンクリート構造
第36回	鉄筋コンクリート造まとめ	演習、まとめ

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週 前期21週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築法規	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	4単位(72時間)	開講・履修期	2026年度・1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	国府田 大輔（建築設計事務所で、住宅、教育施設、既存建築物の増改築など設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	建築・インテリアを構成する一つの要素でもある法規は、現実社会との接点である。建築法規を、身近な存在として親しみを持ち、理解を深めることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式で、テキストを使用して基本概要、また法令集からその読み取り方を合わせて説明する。最後に、法令集を使用した例題及び演習問題を実施する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	法令集のつくり方(インデックスの貼り方、アンダーラインの引き方)
第2回		
第3回	用語の定義	建築物、特殊建築物、居室、主要構造部、構造耐力上主要な部分、
第4回		建築・大規模な修繕・模様替、延焼のおそれのある部分、耐火・準耐火建築物
第5回	面積・高さの算定	敷地面積、建築面積、床面積、延べ面積、高さ、階数
第6回		
第7回	敷地と道路	道路の定義、接道義務、道路内の建築制限、壁面線の指定
第8回		
第9回	用途地域	用途地域の建築制限
第10回		
第11回	建蔽率	建蔽率の定義と算定方法
第12回		
第13回	容積率	容積率の定義と算定方法
第14回		
第15回	高さ制限	絶対高さ制限、道路高さ制限、隣地高さ制限、北側高さ制限
第16回	確認申請・手続	確認申請、完了検査、中間検査
第17回		
第18回		
第19回		
第20回		
第21回	採光	採光有効面積
第22回		
第23回	換気・シックハウス	換気、換気設備、シックハウス対策
第24回		
第25回	天井高・階段	天井の高さ、床の高さ、階段、便所
第26回		
第27回	耐火・防火	耐火建築物等としなければならない特殊建築物
第28回		
第29回	防火・準防火地域	防火地域・準防火地域
第30回		
第31回	避難施設	廊下の幅、出入口、直通階段、避難階段、手すり、排煙設備、非常用の照明設備
第32回		
第33回		
第34回		
第35回	内装制限	内装制限を受ける建築物
第36回		

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週 前期21週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築製図Ⅰ	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	4単位（144時間）	開講・履修期	2026年度：1年（通年）	講義区分	専門実技
教員紹介	岡野 勇（建築設計事務所で、教会設計、土気ヒルズと沢山の街並み計画、実施設計、その他数々の住宅を手掛け新築からリフォームまでインテリア、エクステリア、ライティングまでトータルにデザイン設計を行う経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	「建築製図Ⅰ」では、各種構造の基本や特徴を、実務的な図面を模写することによって、より深く理解する。同時に図面を作成する時の決まりや記入すべき事項、更に手書き図面の表現方法などを習得する。各種図面の読み方、図面相互関係の参照の方法、各部名称、納まり、各部詳細についても理解することを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とする。また、スライドや資料などの教材を利用した講義形式の授業も行う。作業は基本的には個人で行うが、軸組模型についてはグループワークによるものである。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	授業の目橋・教科書・スケジュール・評価方法などの説明
第2回	2. 木造製図	図面の名称・内容・図面の読み方・図面を描く上での注意点
第3回		案内図・求積図・一般事項・基本寸法・面積算出の説明
第4回		配置図講義
第5回～		配置図作図演習①
第7回		配置図作図演習②
第8回		平面図講義
第12回～		1階平面図作図演習①
第13回		1階平面図作図演習②
第14回～		2階平面図作図演習①
第17回		2階平面図作図演習②
第18回		平面詳細図講義
第19回～		1階平面図作図演習①
第22回		1階平面図作図演習②
第23回～		2階平面図作図演習①
第27回		2階平面図作図演習②
第28回		軸組模型講義
第29回～		軸組模型製作演習①
第36回		軸組模型製作演習②
第37回		立面図講義
第38回～		立面図作図演習①
第43回		立面図作図演習②
第44回		断面図講義
第45回～		断面図作図演習①
第48回		断面図作図演習②
第49回		矩計図講義
第50回～		矩計図作図演習①
第54回		矩計図作図演習②
第55回		基礎伏図講義
第56回～		基礎伏図作図演習①
第58回		基礎伏図作図演習②
第59回		1階床伏図講義
第60回～		1階床伏図作図演習①
第62回		1階床伏図作図演習②
第63回		2階床伏図講義
第64回～		2階床伏図作図演習①
第65回		2階床伏図作図演習②
第66回		2階小屋伏図講義
第67回～		2階小屋伏図作図演習①
第68回		2階小屋伏図作図演習②
第69回		展開図講義
第70回～		展開図作図演習①
第72回		展開図作図演習②

※・1単位時間45分（90分授業）・すべての科目は必修科目である・前期21週 前期21週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築設計Ⅰ	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	6単位(180時間)	開講・履修期	2026年度：1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	吉川 友司(建築設計事務所にて、戸建住宅・集合住宅・店舗・展示会等の設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。) 吉竹 徹(店舗デザインを中心に商業施設・公共施設や住宅建築などの企画・デザイン・設計を行い、自らのデザイン事務所を20年主宰している実務経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	「設計演習Ⅰ」では、1年間を通し、戸建住宅を題材に、建築計画学に基づいた住宅の設計手法の実践とプレゼンテーション図作成の技術を学ぶ。また、自分の考え・提案を他の人の前で発表し、納得してもらうといったプレゼンテーションを積極的に授業に取り入れ、自身の考え・提案の更なる進展を図ることを目標とする。夏休み以降はCADによる図面作成を行い、社会的ニーズに応じた幅広い表現方法を学ぶ。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考建物の見学など、校外活動も行う。また、作品は全て個人によるものであり、コンセプトを具体的な空間にまでつくり上げることは、現在学んでいる多くの他の授業の統合である。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				
回	授業項目	授業の計画及び内容			
第1～4回	設計基礎	立体図の作図、間取り分析			
第5～8回	模型制作	住宅図面のトレース、模型制作			
第9～50回	戸建て住宅設計	現地調査、ゾーニング、動線計画、図面制作、模型制作、プレゼンテーション			
第51～90回	集合住宅設計(仮)	現地調査、ゾーニング、動線計画、図面制作、模型制作、プレゼンテーション			

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週 前期21週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築CAD演習Ⅰ	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	3単位(108時間)	開講・履修期	2026年度：1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	石橋 弘次（建築設計事務所にて、戸建て住宅の設計監理業務、マンションリノベーションの設計、インテリアコーディネート業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	CADの概念を理解し、正しい表現としての適切な作図が行える力を習得する事を目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、Vectorworksをベースに、環境設定から面と線、幾何学図形の作図を通し、基本操作を習得。またレイヤークラス分けなどの管理を理解し、適切に運用していく方法を学ぶ。また、CADの操作に留まらず、図面の作図、図面の意図を理解することに重点を置き、第一段階では木造1/100の意匠図、第二段階では各種構造の構成も踏まえた理解、1/50レベルの一部詳細を含んだ表現へと段階的に習得する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ 第3回～	目標と準備 基本設定	CADの概念と実務活用、Vectorworksインストール準備 線を描く：ツール操作、クラス設定と線種、設定等 環境設定：ツール配置、作業画面登録
第5回～ 第7回～ 第11回～	作図練習 家具シンボル作成 木造1/100住宅 配置兼1階平面図	幾何学図形を描く：幾何学図形の作成、加工（切り欠き、張り合わせ）、前後関係 曲線と多角形：円弧、ペジェ曲線、多角形、線分化 作図ベース定義：縮尺、用紙設定、レイヤー設定 通り芯の作図：通り芯、オフセット 壁の作図：ダブルライン多角形、切り欠き 寸法記載：設定、位置の検討 建具の作図：建具の種類、簡易的な窓や開口部の描画 階段：階段の種類と描画、計算方法 建築概要：面積の算定、記号、文字記載
第17回～	2階平面図	図面の管理：レイヤー登録画面設定 作図手順、作図実習
第21回～	立面図の作図	立面図とは：高さの表記、屋根の種類、屋根勾配 作図方法：図面の回転、窓の表現
第25回～	断面図の作図	断面図：断面図とは、切断位置、切断表現 懐寸法：スラブ、屋根、基礎 階段の段数決定の基礎、表現
第29回～	演習課題の作図	設計課題における作図の基本を理解し、自らのプランを作図する力を習得
第33回～	RC造の1/100図面表現	RC造の基礎：ラーメン構造、基本スパン、断面構成の把握、基礎ピット、屋上の構成
第38回～	RC造の1/50図面表現	RC造の応用：仕上げ方法による壁構成の違い、LGSの構成、1/50レベルの図面表現
第43回～	S造の1/100図面表現	S造の基礎：ラーメン構造、基本スパン、断面構成の把握
第48回～	S造の1/50壁の構成	S造の応用：仕上げ方法による壁構成の違い
第50回～	木造の断熱と壁の構成	木造における1/50図面の壁の納まり、断熱材などの構成を理解する
第52～54回	図面表現の再確認	図面における表現の再確認

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週 前期21週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	インテリアコーディネート	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	2単位(72時間)	開講・履修期	2026年度：1年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	石井準司(一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	インテリアのコーディネートについて理解を深め、実務における実践的提案力をつける。ワンルームのコーディネーションを通して素材や家具などの理解を深め、コーディネートの流れをロールプレイする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、インテリアコーディネーターの仕事内容、イメージやスタイルなどの専門用語の意味を理解する事に始まり、ワンルームコーディネーションを通し、基本となる仕上げ素材や家具の知識を得る。課題を通し空間を把握した立体的なコーディネーションのための色バランス、高さ活用を学ぶ。インテリアの素材や仕上げ、設備、家具史などにも触れインテリアコーディネーター試験への関連付けを行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容			
第1・2回 第3回～	第1課題【IC練習問題】 講義・演習(手描き表現)	[スタイルとイメージ]:言葉とイメージ、インテリアの構成要素 第1課題 概要説明、手描き・着彩から、AIによるパースイメージのリファイン [寸法]:寸法感覚をつかむ、基本寸法、メジャーの使い方 [住空間の要素①「私室」]:くつろぐ、楽しむ、寝る、作業する			
第6回～	第2課題 【マンションワンルームIC】 講義・演習(CAD表現)	第2課題 概要説明 [住空間の要素②「リビング・ダイニング・キッチン」]:くつろぐ、楽しむ、作る、食べる [家具]:家具の種類、名作椅子ー近代から現代まで [ウインドウトリートメント]:窓のタイプ、ウインドウトリートメントの種類			
	提出	[色]色の構成、バランス	[材料②壁・天井]:漆喰、珪藻土、塗装、木、クロス(織布、紙、和紙、ビニル)金属等	[材料②壁・天井]:漆喰、珪藻土、塗装、木、クロス(織布、紙、和紙、ビニル)金属等	[材料②壁・天井]:漆喰、珪藻土、塗装、木、クロス(織布、紙、和紙、ビニル)金属等
	模型製作	コーディネーションにおけるプレゼンシート表現方法、レイアウト	[色]色の構成、バランス	[色]色の構成、バランス	[色]色の構成、バランス
		[高さ]:天井高さ、プロポーション、空間の空き、段差の活用	コーディネーションにおけるプレゼンシート表現方法1	コーディネーションにおけるプレゼンシート表現方法1	コーディネーションにおけるプレゼンシート表現方法1
		[建具]:扉の種類、金具、材質	課題作成	課題作成	課題作成
		[材料③透明材]:ガラス、アクリル、ポリカーボネード、ガラスブロック	第2課題提出・プレゼンテーション	第2課題提出・プレゼンテーション	第2課題提出・プレゼンテーション
第19回～	【電気・照明設備】	インテリアの配線計画			
第23回～	提出／プレゼンテーション	講評			
第30回～	【様式史・アンティーク知識】 授業内テスト	ヨーロッパの家具史ー古代から近世まで			
第36回	提出				

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週 前期21週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	インテリア課題研究	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	4単位(138時間)	開講・履修期	2026年度：1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	右井準司(一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)/右橋弘次(建築設計事務所にて、戸建て住宅の設計監理業務、マンションリノベーションの設計、インテリアコーディネート業務に従事した経験を活かし授業を行う。)/吉竹 徹(店舗デザインを中心に商業施設・公共施設や住宅建築などの企画・デザイン・設計を行い、自らのデザイン事務所を20年主宰している実務経験を活かし授業を行う。)/岡野 勇(建築設計事務所で、教会設計、土気ヒルズと沢山の街並み計画、実施設計、その他数々の住宅を手掛け新築からリフォームまでインテリア、エクステリア、ライティングまでトータルにデザイン設計を行う経験を活かし授業を行う。)/吉川 友司(建築設計事務所にて、戸建住宅・集合住宅・店舗・展示会等の設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	インテリアのコーディネイト・デジタルプレゼンテーション・設計・製図の各分野において理解を深め、実務における実践的提案力をつける。前後期において各授業内容を適所にスケジュール配置し、各分野と連携し、デザインソフト技術取得や手描きを中心とした演習を実施する。最終成果物としてより高次のプレゼンテーションを目指す。、その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、インテリア系ショールームの見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。期限内に作品を完成させることを最優先している。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	講義	概論・全体概要
第2～15回	講義・演習	【インテリアコーディネイト】 ①インテリアイメージからインテリアコーディネイトへの考察、実践 実践(成果物)：手描きパース作成 ②インテリアコーディネイトに関する、素材・材料の考察、実践 実践：素材・材料取り扱いショールーム見学、考察内容
第16～30回	講義・演習	【デジタルプレゼンテーション】 ①グラフィックソフト/ビジュアライゼーションツールの技術取得 ・Photoshop(グラフィックデザインソフト) ・SketchUp(3Dモデリング) ・Twinmotion(3Dモデルのレンダリングや制作) ②プレゼンテーションシートの作成、実践
第31～48回	講義・演習	【設計演習】 ①建築物の考察 現地(著名住宅建築)視察、調査、体験 ②視察をした建築物再現 平面図・立面図・断面図トレース
第49～69回	講義・演習	【製図】 ①軸組み模型製作※グループ制作

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週 前期21週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築計画Ⅱ	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	4単位(72時間)	開講・履修期	2026年度・2年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	栗山雅之（実務経験を持つ一級建築士であり、インテリアデザイン事務所、設計施工会社企画設計部で、主にホテル・商業施設・店舗等の設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	各施設計画における用語や基本的な考え方を理解する。そのうえで、実際の建築事例に対する計画学的読解力を高める。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式で基本概要の解説を行い、演習を適宜実施する。また、平面図を中心に多くの建築事例の図面を用いて、それらの計画学的な意図・手法について読み解いていく。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回 第2回～ 第5回	1. ガイダンス 居住施設	授業のテーマ・目標・スケジュールの説明 1－1独立住宅 1－2集合住宅
第6回～ 第9回	2. 学校教育施設	2－1学校 2－2幼稚園・保育所
第10回～ 第16回	3. 社会教育施設	3－1図書館 3－2美術館 3－3コミュニティ施設など
第17回～ 第19回～ 第28回	4. 医療施設 5. 商業施設	4－1医療施設 5－1事務所 5－2ホテル 5－3劇場・映画館 5－4店舗 5－5駐車場など
第29回	6. 高齢者施設	6－1高齢者施設
第30回	7. 防災・避難	7－1防災・避難
第31回 ～34回	8. 計画一般	8－1計画一般
第35回	9. 都市計画	9－1都市計画
第36回	10. 建築史(一部)	10－1建築物の保存・再生・活用

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週 前期21週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	環境工学	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	2単位(36時間)	開講・履修期	2026年度・2年(後期)	講義区分	専門理論
教員紹介	丹野 亜紀(エネルギー事業会社で、地域開発業務、戸建て・集合住宅等の企画・設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	快適な空間を理解し、自らそれを作り出すために、建築が人間に与える環境(熱・空気・光・音など)について工学的な基礎知識を学ぶ。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュール
第2回	太陽と地球1	太陽位置、地球の公転・自転、日照と日影
第3回	太陽と地球2	太陽からの放射と地球放射
第4回	太陽と地球3	地球の大気と気象
第5回	太陽と地球4	温暖化、ヒートアイランド
第6回	波の性質	波の性質、波としての音、波としての光
第7回	熱の性質	熱とは、熱の伝わり方
第8回	熱1	人体の熱収支、温熱快適要素、温熱快適指標
第9回	熱2	室内環境における熱収支、断熱、蓄熱
第10回	熱3	湿気、結露、対策
第11回	空気環境1	室内空気と汚染源
第12回	空気環境2	換気(目的、必要換気量、原理、種類)①
第13回	空気環境3	換気(目的、必要換気量、原理、種類)②
第14回	音1	音の強さ(物理量、知覚、伝搬)①
第15回	音2	音の強さ(物理量、知覚、伝搬)②
第16回	音3	音の計画(音の評価、環境振動・固体音、響き・知覚)①
第17回	音4	音の計画(音の評価、環境振動・固体音、響き・知覚)②
第18回	学習のまとめ、復習	まとめ及び復習など

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週 前期21週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築設備	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	2単位(36時間)	開講・履修期	2026年度・2年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	本間 修市（空調設備会社、建築設備事務所で施工管理、設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	建築計画に必要な環境及び建築基準法・消防法・ビル管理法・建築確認申請等の解説。 自分で設計した建物に給排水・換気・照明器具等設備設計図の作成を行う。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 建築設備	建築設備に関する概要
第2回～ 第4回	2. 給水設備	給水方式、給水使用量、用語の解説、給排水設備機器、使用量等の調査
第5回～ 第6回	3. 換気設備	換気方式、建築基準法に適合する計算式等の基本を学ぶ
第7回～ 第9回	4. 空調設備	冷暖房方式、冷暖房負荷、結露の原因等の概要 冷暖房設備の負荷計算書の作成
第10回～ 第12回	5. 電気設備	電気幹線・照明・テレビ・インターホン・電話等に関する概要 照明の照度計算
第13回～ 第14回	6. 熱源機器	化石エネルギー・自然エネルギー等の概要
第15回	7. 防災設備	消火設備・火災報知設備・消防法等に関する基本
第16回～ 第17回	8. 建築設備図面	簡単な建築設備図の作成 (各自のパソコンで作成)
第18回	9. 資格試験問題	練習問題・解説

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週 前期21週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	構造力学	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	4単位(72時間)	開講・履修期	2026年度・2年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	国府田 大輔(建築設計事務所で、住宅、教育施設、既存建築物の増改築など設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	重力や地震・台風などから人間が暮らす空間を守るためには、建物の力学的な安定が必要となります。本授業では、初歩的な構造物を対象に力のつり合いについて学び、建物の骨組みのどこにどのような力が作用しているかの解法を身につけます。				
授業の概要及び特徴	講義形式で基本概要及び例題の解説を行い、演習を繰り返し実施する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュールなど、ルーブリック表及びシラバスの解説
第2回	構造力学概論	建築物の支点・節点および荷重のモデル化、構造物の分類
第3回	力とモーメント	力・モーメント・偶力
第4回		
第5回	力の合成と分解	合成・分解の計算方法
第6回		
第7回	力のつり合い	つり合い式
第8回		
第9回	反力	反力の算定(梁)
第10回		
第11回		反力の算定(ラーメン)
第12回		
第13回		反力の算定(3ヒンジ系ラーメン)
第14回		
第15回	応力	応力の算定(片持ち梁)
第16回		
第17回		応力の算定(単純梁)
第18回		
第19回		応力の算定(ラーメン)
第20回		
第21回	トラス	切断法による応力の算定(片持ち梁式トラス)
第22回		
第23回		切断法による応力の算定(単純梁式トラス)
第24回		
第25回	断面の性質	断面一次モーメント
第26回		断面二次モーメント
第27回		断面係数
第28回	座屈	
第29回		
第30回		
第31回	応力度	垂直応力度、せん断応力度、曲げ応力度
第32回		
第33回		
第34回	不静定構造物	たわみ、たわみ角
第35回		
第36回		

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週 前期21週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築材料	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	2単位(36時間)	開講・履修期	2026年度・2年(後期)	講義区分	専門理論
教員紹介	篠原 範之(建築設計事務所で、主に戸建て住宅、集合住宅、商業・事務所ビル等の設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	使用する材料の選択は重要である。意匠面だけでなく、安全性や耐久性という建築の性能に関わる。材料に実際に触れる機会を設け、卒業後に設計の現場において適切な材料の選択ができる能力を養う。材料同士の取り扱い、おさまりについても学ぶ。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とし、教科書その他スライドや配布プリントを使用。テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容		
第1回	建築材料の概要	①建築材料の歴史 ②建築材料と規格		
第2回	木 材	①日本建築と木材	②木材の種類	③木材の特徴
第3回		④木材の強度	⑤木材の構造	⑥木材と水分
		⑤木取り、規格、等級	⑧エンジニアリングウッド	
第4回	コンクリート	①コンクリートとは	②セメント	③骨材
第5回		④水	⑤混和材料	⑥コンクリートの性質
		⑦調合設計	⑧コンクリートの種類	⑨コンクリートの製品
第6回	鋼 材	①鉄の歴史	②鋼材とは	③製鋼の工程
第7回		④鋼材の特徴	⑤鉄鋼の種類	⑥鋼材の性質
		⑦鋼材の腐食と防食	⑧鋼材の規格	⑨非鉄金属
第8回	焼成品	①焼成品は焼き物	②タイル	③れんが
第9回		④瓦	⑤衛生陶器	
第10回	ガラスと石	①ガラスとは	②ガラスの歴史	③ガラスの特徴
第11回		④ガラスの種類	⑤石材とは	⑥石材の特徴
		⑦石の分類		
第12回	左官材料・ ボード類	①左官とは	②左官の起源と定義	③左官の特徴
第13回		④近年の左官仕事	⑤左官の種類	⑥ボード類
第14回～ 第18回	その他の材料	①プラスチック材料 ④造作材 ⑥建具	②塗料 ⑤屋根材・防水材・断熱材	③接着剤

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週 前期21週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築施工	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	2単位(36時間)	開講・履修期	2026年度・2年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	篠原 範之(建築設計事務所で、主に戸建て住宅、集合住宅、商業・事務所ビル等の設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	将来インテリア・建築に関連する業務において、知っておくべき最低限の現場実践的な知識の理解を目指す。建築施工の流れや、契約から鉄筋コンクリートの躯体ができるまでを中心に、施工方法等の基礎的な知識を習得する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	契約・計画・管理 契約・仕様書 施工計画	ガイダンス 教材の説明と授業の進め方 工事計画 施工計画 工程計画
第2回	施工管理 工事準備	現場 安全 材料 品質管理 申請・届出・手続き 各調査
第3回	各部工事 仮設工事	仮設工事の要点 種類 仮囲い 足場 棧橋 架設通路 安全施設
第4回	土工事 地業工事 基礎工事	地盤調査 土工事 地業工事 杭工事
第5回	鉄筋工事	鉄筋の種類 鉄筋の加工・組立 定着 継手
第6回	型枠工事	型枠の材料 加工・組立 解体 特殊工法
第7回	コンクリート工事	コンクリートの材料 用語 調合 製造 運搬・打込・養生 品質管理・試験方法等
第8回	鉄骨工事	材料 工場作業 接合 現場作業 耐火被覆
第9回	組積工事	補強コンクリートブロック工事 ALC工事 れんが工事
第10回	木工事	材料 加工 造作工事 枠組壁工法
第11回	防水工事	防水の種類 メンブレン防水工事 シーリング工事
第12回	左官工事	各種下地 塗り工事 吹付け工事
第13回	タイル工事 石工事	
第14回	塗装工事 建具工事 ガラス工事	種類と特性 素地ごしらえ 工法
第15回	内装工事 断熱工事	
第16回	設備工事	給排水衛生 建築と設備の関連
第17回	各種工事 施工用語 施工機械器具	屋根工事 金属工事 揚重・運搬用機械 土工事用機械 各種工事用機械 工法と工事等の関係
第18回	その他 積算 測量	工事費の構成 積算用語 積算の基本事項 各種工事の歩掛り・割増率 縄張り・やりかた 各種測量

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週 前期21週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築製図Ⅱ（RC造）	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	1単位（36時間）	開講・履修期	2026年度・2年（後期）	講義区分	専門実技
教員紹介	篠原 範之（建築設計事務所で、主に戸建て住宅、集合住宅、商業・事務所ビル等の設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	鉄筋コンクリート構造の基本や特徴を、実際の図面を模写することによって、より深く理解する。同時に図面を作成する時の決まりや記入すべき事項、さらに手書き図面の表現方法などを習得する。各種図面の読み方、図面相互関係の参照の方法、各部名称、納まり、各部詳細についても理解する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、実務的な図面の紹介・説明も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス 鉄筋コンクリート造 設計製図課題	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2回		図面の名称・内容、図面の読み方、図面を描く上での注意点
第3回		配置図・1階平面図講義
第4回～ 第8回		配置図兼1階平面図作図演習① 配置図兼1階平面図作図演習②
第9回		基準階平面図講義
第10回～ 第13回		基準階平面図作図演習① 基準階平面図作図演習②
第14回		断面図講義
第15回～ 第18回		断面図作図演習① 断面図作図演習②

※・1単位時間45分（90分授業）・すべての科目は必修科目である・前期21週 前期21週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	設計演習Ⅱ（商業施設）	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	2単位（76時間）	開講・履修期	2026年度：2年（前期）	講義区分	専門実技
教員紹介	木村直樹（実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	「設計演習Ⅱ」では、リサーチからプレゼンテーションまでの実務に即したプロジェクトフローに基づき商業施設の建築計画を理解することを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考建物の見学など、校外活動も行う。また、作品は主にグループワークによるものであり、コンセプトを具体的な空間にまでつくり上げることは、現在学んでいる多くの他の授業の統合である。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1・2回	1. ガイダンス、商業施設の概要	① 商業施設の概要説明、事例研究
第3・4回	2. 商業施設の考え方	① コンセプト／プランニング／デザインの解説
第5回	3. 商業施設の設計	① 課題説明
第6～8回	4. 調査・分析	①② 計画地リサーチ／類似施設調査
第9・10回	5. プログラミング（設計条件の設定）	①② 法的条件チェック 施設構成、機能の設定
第11～16回	6. プランニング（イメージ・コンセプト構築）	①② プランニング コンセプト・イメージ・ゾーニング・動線・空間構成等の検討
第17～24回	7. デザイン（建築・インテリア計画）	① 平面・立断面・ボリュームスケッチ等作成
第25～36回	8. ビジュアライゼーション 視覚化（図面・模型作成）	①②③ コンセプト・計画概要・配置図 各階平面図・立面図・断面図 外観パース・内観パース・模型
第37～38回	9. プレゼンテーション（発表）	① 成果物をもとに各自が作品についてのプレゼンテーションを行なう。 （自分の考え方を整理し、落ち着いて発表できるプレゼン能力が必要とされる） 各作品に対する講評を行なう。

※・1単位時間45分（90分授業）・すべての科目は必修科目である・前期21週 前期21週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築CAD製図Ⅱ	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	1単位(36時間)	開講・履修期	2026年度:2年(通年・前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	木元 洋佑(一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる建築設計事務所で商業施設・学校施設・伝統的建築物活用のためのリノベーションの設計監理業務に従事している経験を活かした授業を行う。)				
授業の到達目標	Archi CADの基本技能の(モデリング+レンダリング)取得。				
授業の概要及び特徴	鉄骨造住宅を題材としての実技・演習形式(モデリングからレンダリング及び建築図面の作成)を主とする。近年、建設業界におけるBIMの活用が急激に進んでいる中で、今後必要とされる技術の取得、BIMについての理解を重視する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス インストール	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明 アプリケーションのインストール。無償教育版の申し込みを行う。
第2回	操作の基本1	基本的なアーキキャドの操作方法を実戦。
第3回	操作の基本2	作業画面の設定を行う。
第4回	モデリング1	名作住宅であるファンズワース邸(平屋建て鉄骨造)を題材としてモデリングを行う。
第5回		敷地の設定。フロアの設定。通り芯。柱の配置。
第6回	モデリング2	スラブ、外壁、間仕切りの配置。建具の配置。
第7回		
第8回	モデリング3	階段、ゾーン、オブジェクトの配置。
第9回	レンダリング	モデリングしたファンズワース邸のレンダリングを行う。
第10回		
第11回	図面・レイアウト	モデリングしたファンズワース邸を図面化する。(平面図、立面図、断面図)
第12回		図面のレイアウトを行う。
第13回	ゾーンツールの活用	ゾーンツールを利用してアーキキャドによるスタディの仕方を学ぶ。
第14回		敷地の入力
第15回～		ゾーンの作成
第18回	アーキキャドの応用	建築プレゼンテーションの参考事例等の説明

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週 前期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築CAD製図Ⅱ	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	1単位(36時間)	開講・履修期	2026年度:2年(通年・後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	木元 洋佑(一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる建築設計事務所で商業施設・学校施設・伝統的建築物活用のためのリノベーションの設計監理業務に従事している経験を活かした授業を行う。)				
授業の到達目標	AutoCADの基本操作と応用操作を習得し、図面作成に必要な知識を身に付ける。				
授業の概要及び特徴	RC造共同住宅を題材としての実技・演習形式(建築図面の作成)を主とする。汎用CADでは世界的なシェアを誇るAutoCADの習得を特徴とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス 2. インストール 3. AutoCADとは	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明。 AutoCADのインストールとアクティベーションについて。 CADソフトの種類、AutoCADのバージョンについて。
第2回～ 第5回	4. AutoCADの基本操作	建築図面の作成に必要な基本的な作成コマンドの操作方法について。 環境設定、コマンドの使い方・オブジェクトの選択。 新規図面作成・テンプレートと図面範囲、座標入力。 ポリラインの作成と編集、ファイルの保存とバックアップなど。
第6回～ 第8回	5. AutoCADの修正機能	建築図面の作成に必要な修正コマンドの操作方法について。 移動と複写、オフセット・回転、トリム・延長、尺度変更・鏡像、フィレット・面取りなど。
第9回～ 第11回	6. AutoCADの応用機能	建築図面の作成に必要な応用機能の操作方法について。 文字や寸法の設定と入力の方法。 図形を効率よく作成、修正する有効な機能とその活用方法。 画層/レイヤーを使った図面の作成について。
第12回～ 第18回	7. 建築図面の作成	3階建てRC造共同住宅を題材として、実践的な操作方法で建築図面を作成する。 各スタイルの設定とテンプレートの活用、マルチラインの設定と作成。 基点設定・2点間中点・分解・グリップ編集。 ブロックの作成と挿入・属性の作成と編集など。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週 前期21週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	インテリアデザイン	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	2単位(72時間)	開講・履修期	2026年度:2年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	吉竹 徹（店舗デザインを中心に商業施設・公共施設や住宅建築などの企画・デザイン・設計を行い、自らのデザイン事務所を20年主宰している、インテリアデザインの実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	商業施設及び店舗の実地調査し、「商い」の本質をインテリアデザインの立場より見抜く目を養う。商業施設とは「安心して買い物や飲食ができる空間を創ること」を基に、専門的な知識の学習、設計基本を学び、知恵へと膨らませる。その集大成として、自身で企画した店舗を実地区画にデザイン・設計。模型を製作し、最終プレゼンテーションを行う。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や専門機関ショールームの見学など、実地レベルでの体験授業なども適宜取り入れる。また、スライドや実現場で行われている内容を講義形式で行う。作品は全て個人またはグループによる創作である。立地調査からコンセプト・デザイン・設計を商いのカタチにまで造り上げることにより、最終では期限内に作品を完成させることを最優先として、スケジュール管理も個々行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				
回	授業項目	授業の計画及び内容			
第1回	1. ガイダンス	インテリアデザインとは 商業施設・店舗の実例をもとに、実践したプレゼンテーションの実演から学ぶ			
第2回	2. 課題現地調査	商業施設及び店舗、課題地調査			
第3回～	3. 課題現地調査書作成① 4. 課題現地調査書作成②	現地調査に基づき、グループ単位での現地調査書(プレゼン資料)を作成① 現地調査に基づき、グループ単位での現地調査書(プレゼン資料)を作成②			
第11回～	5. 調査書プレゼンテーション	現地調査書、プレゼンテーション(各グループ単位)、グループ別講評			
第13回	6. 店舗企画案	店舗企画案:業種・業態・ターゲット・販売方法			
第14回	7. インテリア設計概論	実地店舗においての、コンセプト作り、平面ゾーニング、平面計画等の手法を学ぶ			
第15回	8. インテリア専門機関研修	インテリア関連専門機関(ショールーム)にて素材研究/体験授業研修			
第16回～	9. 平面ゾーニング・計画① 10. 平面ゾーニング・計画②	店舗設計、コンセプト・平面ゾーニング・計画図作成① 店舗設計、コンセプト・平面ゾーニング・計画図作成②			
第20回～	11. 設計図書製作① 12. 設計図書製作② 13. 設計図書製作③	店舗設計、平面図・立面図・展開図・パース等、設計図書作成① 店舗設計、平面図・立面図・展開図・パース等、設計図書作成② 店舗設計、平面図・立面図・展開図・パース等、設計図書作成③			
第28回～	14. インテリア模型製作① 15. インテリア模型製作② 16. インテリア模型製作③	インテリア、模型製作① インテリア、模型製作② インテリア、模型製作③ /最終プレゼンテーションシート作成			
第34回～	17. 最終プレゼンテーション① 18. 最終プレゼンテーション②	プレゼンテーション、個別作品講評会① プレゼンテーション、個別作品講評会②			
第36回	19. 最終講評会	各作品全体講評会、インテリア設計のまとめ			

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週 前期21週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	家具デザイン	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	2単位(72時間)	開講・履修期	2026年度:2年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	吉竹 徹(店舗デザインを中心に商業施設・公共施設や住宅建築などの企画・デザイン・設計を行い、自らのデザイン事務所を20年主宰している、インテリアデザインの実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	日々の暮らしや仕事、交流や休息の場面を支えてくれている家具。家具の3要素である「強(堅牢・丈夫)/用(機能・使いやすさ)/美(美しさ・快適さ)」を基軸に、課題に取り組むプロセスのなかで、発想力を磨き上げることを学びます。その集大成として、自身でデザインした家具の企画書・設計図・3D・模型を製作し、最終プレゼンテーションを行う。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、実物調査や専門機関の見学など、原寸レベルでの体験授業なども適宜取り入れる。また、スライドを用い、実現場で行われている内容を講義形式で行う。作品は全て個人またはグループによる創作である。調査と体験からコンセプト・デザイン・設計を家具のカタチにまで造り上げ、プレゼンテーションすることにより、最終では期限内に作品を完成させることを最優先として、スケジュール管理も個々行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				
回	授業項目	授業の計画及び内容			
第1回 第2回～	1. ガイダンス /講義	家具デザインとは(概論) 家具の実例をもとに、「強・用・美」から学ぶ家具の基礎概論 ※基礎概論～強度・人間工学と用・美しいということ・スタイルの調和			
第4回 第5回～	2. 実物(体験)調査 /プレゼンテーション	「名作家具から学ぶ」モダン家具のデザインを実体験 ※プレゼンテーション形式による、レポート作成			
第11回～ 第15回	3. 課題演習Ⅰ /講義	「家具デザイン課題演習Ⅰ」 制作フロー～発想原点・テーマと造形・モックアップ制作・作図・プレゼンテーション			
第16回	A インテリア専門機関研修	インテリア関連専門機関(ショールーム)にて素材研究/体験授業研修			
第17回～ 第20回～ 第23回～	4. 課題演習Ⅱ 5. 家具企画案 6. 設計図書製作① 設計図書製作② 設計図書制作③	「家具デザイン課題演習Ⅱ」 ラフスケッチによる、アイディア出し、コンセプト作成 コンセプト・家具三面図・3D等、プレゼンボード作成① コンセプト・家具三面図・3D等、、プレゼンボード作成② コンセプト・家具三面図・3D等、、プレゼンボード作成③			
第27回～	7. /中間プレゼンテーション	中間プレゼンテーション、中間講評会			
第29回～	8. 家具模型製作① 家具模型製作②	家具、模型製作① 家具、模型製作②			
第33回～	9. 最終プレゼンテーション① 最終プレゼンテーション②	プレゼンテーション、個別作品講評会① プレゼンテーション、個別作品講評会②			
第36回	10. 最終講評会	各作品全体講評会、家具デザインのまとめ			

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週 前期21週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	デジタルプレゼンテーション	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	1単位(36時間)	開講・履修期	2026年度:2年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	石橋 弘次（建築設計事務所にて、戸建て住宅の設計監理業務、マンションリノベーションの設計、インテリアコーディネーション業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	「illustrator」「photoshop」を主としたデジタルツールの操作習得を通し、自身が計画した提案を、他者へ的確に伝えるプレゼンテーション能力を身に着けることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、実務において汎用性の高いillustratorの基礎から応用までを習得し、課題を通しDTPデザインを経験する。また、効果的なプレゼンテーション手法や、レイアウト、図面やパースの着色表現の手法を習得する。ポートフォリオの意味や作成手順を理解し、コンペティションにも応用できる表現力を身に着ける。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	目標と準備	[授業の目標]:スケジュール説明、ソフトウェアインストールのおさらい ポートフォリオとは何かを理解する
第2回	Illustratorの作画基礎復習	[線]: ペンツール、ペジェ曲線、アンカーポイント、パス、ブラシ
第3回	カラーバランスの応用	[面]: 面作成、レイヤー前後関係、加工、パスファインダー
第4回	文字の段落と構成	[カラー]: カラー設定、スウォッチ登録、グラデーション [画像配置]: 解像度おさらい、画像のリンク、埋め込み、ライブトレース、ラスタライズ
第5回	レイアウト講座	[文字]: 文字設定、段落設定、文字のレイアウト、フリーフォントの活用
第6回		[レイアウト講座①]: レイアウトの基本、ルール、手順、実測
第7回	平面図の着色表現	[レイアウト講座②]: レイアウト実習 ページレイアウト想定
第8回	立面図の着色表現	VectorからIllustrator、図面の着色、ドロップシャドウ
第9回	パースの着色表現	影と輪郭の強調、点景や背景の合成
第10回	データ量と圧縮	カラー濃度のバランス調整、描画モードの活用
第11回 ～第18回	DTP	実務における適切なデータ量、解像度とは何か 印刷の種類とトリムマーク

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週 前期21週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築CAD研究	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	4単位(138時間)	開講・履修期	2026年度・2年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	木元 洋佑（建築設計事務所で商業施設・学校施設・伝統的建築物活用のためのリノベーションの設計監理業務に従事している経験を活かした授業を行う。）				
授業の到達目標	Archi CAD技能の取得（平面図、立面図、断面図、3Dモデルの作成、レンダリング）。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、建設業界におけるBIMの活用が急激に進んでいる中で、今後必要とされる技術を取得することを目的とする。BIMソフトを利用した、プレゼンテーションや、他ソフトとの連携についての技術も取得する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2回	2. インストール	アプリケーションのインストール。無償教育版の申し込みを行う。
第3回	3. BIMの基本	簡易建物(オフィスビル)の作成
第4回～ 第10回	アーキキャドに慣れる	簡易的な建物をモデリングすることによりアーキキャドの基本的な操作を学ぶ。
第11回	4. 操作の基本1	基本的なアーキキャドの操作方法を実戦。
第12回	環境の設定	操作画面の環境設定を行う。
第13回～ 第18回	5. 操作の基本2 モデリング	ファンズワース邸を参考にモデリングを行う。
第19回～ 第22回	6. 操作の基本3 レンダリング 図面 レイアウト	モデリングしたファンズワース邸を利用して、レンダリング、図面化、レイアウトを行う。 レイアウトした図面を出力する。
第23回～ 第26回	7. CADの応用 設計課題の敷地を作る	プロジェクトを始める前の準備を学ぶ。 計画敷地を与えられたのちにスタディをするまでの準備段階をアーキキャドで行うことにより卒業制作でアーキキャドを活用できるよう学習する。
第27回～ 第32回	8. CADの応用2 ゾーンツール	ゾーンツールを利用して保育所の設計をする。 ゾーンツールを使って設計課題の敷地でスタディを行う。
第33回～ 第41回	9. BIMデータを利用した プレゼンテーション への活用	BIMデータを利用した、効率的なプレゼンテーション方法を学ぶ。
第42回～ 第56回	9. 木造図面の作成 実施図面への変更	木造軸組の設計時のBIMの使い方を学ぶ。 構造の入力＋壁の入力 基本図面から実施図面への変換
第57回 第58回	10. BIMXの活用 プレゼンテーション	BIMXへの変換、活用方法 これまでに作成したCAD図面、3Dモデル、デジタルパースなどを素材に、一つのプレゼンテーションソフトにまとめ、実際に発表する。
第59回～ 第69回	11. 0から課題をまとめる	1級建築士試験を題材にアーキキャドで提出図面をまとめる。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	卒業制作	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2026年度:2年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	吉川 友司(建築設計事務所にて、戸建住宅・集合住宅・店舗・展示会等の設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	自由なテーマを設定し、リサーチからプレゼンテーションまでの実務に即したフローに基づき計画を進める。テーマに関する情報収集・企画構想、プログラムに対するプランニング、デザインにおける想像力、造形力、プレゼンテーション能力を養う。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考建物の見学など、校外活動も行う。また、作品は全てグループワークによるものであり、テーマ・コンセプトを具体的な空間にまでつくり上げることは、在学中に学んだ多くの他の授業の集大成である。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ 第4回	1. テーマ設定	テーマに合わせた敷地の選定 ■テーマレポート提出
第5回～ 第9回	2. 調査・条件分析 方向性の検討	①テーマに関する資料収集、計画敷地、役所調査、現地調査 ②計画敷地模型作成 ■企画発表会・企画書提出
第10回～ 第19回	3. エスキース	①配置計画(方位・隣地・接道・外構・建築ボリュームの検討) ②平面計画(ゾーニング・動線・採光・通風・プライバシー・床面積の検討) ③立・断面計画(階高・外装・サイン・法規制の検討) ④インテリア計画(内装・ファニチュアプランの検討) ■エスキース(図面・模型)提出
第20回～ 第29回	4. 視覚化	①図面・模型製作開始 ②設計主旨・建築概要 ③各階平面図、立・断面図 ④内観・外観パース(模型写真)
第30回～ 第34回	5. 提出・ プレゼンテーション	■最終成果物提出 ■発表

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週 前期21週 年間計42週